

## リハビリテーション学部 20周年記念行事を開催します。

2026年11月の開催を予定しております。

以前、西九州大学に勤務されていた先生方もご招待する予定としております。詳細が決定しましたら各期のLINEや同窓会のホームページにてお知らせいたします。皆さまのご参加をお待ちしております。



## 卒業研修会の開催報告 (2025年度)

### 西九州大学リハビリテーション学部同窓会卒業研修会

#### ■西先生の講義：「臨床に直結する解剖学的知識と理学療法」



今回は「臨床に直結する解剖学的知識と理学療法」をテーマにご講義いただきました。学生時代に学んだ解剖学の基礎を丁寧に振り返りながら、近年の研究知見を交え、日々の臨床にどのように結びつけて考えるかについて分かりやすく解説していただきました。講義では、解剖学的知識の再整理に加え、評価や介入へとつなげるための視点や思考過程についても具体的に示していただき、参加者にとって理解を深めやすい内容となっていました。参加者は講義内容を自身の臨床と照らし合わせながら熱心に聴講されており、対面形式ならではの一体感のある研修会となりました。「明日からすぐに活かせる考え方を学べた」「基礎の重要性を改めて実感した」といった声が多く寄せられました。



#### ■久木崎先生の講義：「上肢運動器疾患に対するハンドセラピー」

上肢運動器疾患患者に対する介入をテーマに、橈骨遠位端骨折の機能障害に対する訓練法や日常生活場面でアプローチをする際の考え方について、動画や画像を用いて分かりやすくご講義いただきました。講義終了後、質疑応答の時間が足りないほど参加者からの質問が多くあり、参加者の関心が高まる講義内容だった印象です。参加者からは「ハンドセラピーについてもっと知識を深めたい」といった声が多く寄せられました。



### ひとやすみ

#### ～同窓会役員をつぶやき～

13期卒業生 長尾 絃希

西九州大学リハビリテーション学部13期卒業生の長尾絃希と申します。現在、同窓会役員として活動しています。今回は私自身の趣味についてお話をさせていただきます。私はプロ野球チームの福岡ソフトバンクホークスのファンです。常勝軍団と言われるチームですが、今年は序盤にリーグ最下位と苦しみました。しかし、最終的にはリーグ優勝と日本一を達成されました。主力選手の怪我が相次ぐ中、控え選手や2軍にいた選手たち、つまり全員が活躍したと言っても過言ではない今シーズンでした。今季優勝できたのは監督・選手も口にされていた『役割』という言葉が要因ではないかと思っています。小久保裕紀監督は『役割』について、「離脱した選手の穴埋めとしてプレーするのではなく、今の自分が何をすべきかを考えて試合に臨むことが重要だ」とシーズン前から話されていました。さらにスローガンとしてPs(ピース、プロフェッショナルスピリット)を掲げ、1人1人がプロである自覚を持ち、チームの1つのピースになるよう今シーズンをスタートしました。そして、その言葉通り1人でも欠けることがあれば優勝はなかったと素人ながらに感じました。試合後のインタビューなどを通して『役割』が大事ということを聞くことが多かったのですが、大事なのは今の自分に何が出来る、何が出来ないのかを考え、集団1つになって全体で物事を達成することだと思います。今年のプロ野球は私の職種である理学療法士にも関連していると感じます。1、2年目の時は患者様に対して評価・治療をし、ADLの向上を図ることが仕事だと考えていました。しかし、それだけでなく医師、看護師、社会福祉士、栄養士、その他の職種と協力し、患者様に寄り添うこと、自分なりの治療プログラムの方法、寄り添い方を日々考えながら仕事することが理学療法士として働く上で必要なことだと思い、日々仕事をしています。まだ3年目と若い年数ですが、1人のプロの理学療法士としてこれからも自分自身と向き合っていきたいと思っています。



# 2024年度 西九州大学大学院 リハビリテーション学専攻(修士課程)修了者に聞いてみた!

## アンケート内容

- ① 所属
- ② 大学院に進学したきっかけは?
- ③ なぜ西九州大学の大学院を選びましたか?
- ④ 大学院でどんな研究をされましたか?
- ⑤ 指導教員の先生を一言でいうと?
- ⑥ 大学院への進学を考えている方に一言!

### ① 聖ルチア病院

② 自身の臨床実践を客観的に評価する手法を学び、日々の臨床で得た知見を確かなものとするために、大学院への進学を決めました。

③ 自分の研究したい分野に詳しい先生がいらっしゃったので選びました。

④ SSTの練習場を、支援者が決めるのではなく、本人が主体的に選べるようにする。そのための新しいツール(S-CAT30)を開発しました。

⑤ 研究・臨床・教育のそれぞれに造詣が深く、的確なご指導をしてくださる方です。

⑥ 柔軟に対応してくださる先生たちなので、働きながら・子育てしながらでも卒業する事が出来ました。

### ① 医療法人敬天堂古賀病院(回答時)

② 学会発表をする中で、研究の仕方をしっかりと学びたいと思ったため。

③ 4年間理学療法学専攻でお世話になり、大学の雰囲気等を知っていたため。

④ 慢性閉塞性肺疾患患者(COPD)に関する研究を行いました。

⑤ PT人生の師範

⑥ 臨床で困ってることを解決するきっかけになると思います。



小松 洋平先生 川勝 陽平さん  
国際医療福祉大学



大田尾 浩先生 末永 拓也さん  
西九州大学  
リハビリテーション学部(8期生)

# 博士後期課程 入学者インタビュー

西九州大学大学院 保健医療学専攻(博士後期課程) 2025年度入学者

## 末永 拓也(すえなが たくや)さん



### 1 所属施設

かとうクリニック内科・呼吸器内科

### 2 取得免許

理学療法士、3学会合同呼吸療法認定士

### 3 指導教員

大田尾 浩 教授

### 4 なぜ博士課程に進学したのか

修士課程で学んでいるうちにもっと本格的に研究を行いたいと考えるようになりました。さらに、修士で出た疑問を解決し臨床還元したいと考えたため、博士課程に進学しました。

### 5 なぜ西九州大学大学院保健医療学を選択したのか

修士時代にもご指導いただいた大田尾浩教授がいらっしゃること、修士のころから先輩の保坂先生も博士後期課程の1期生として在学されていたことが西九州大学を選んだ理由の一つです。

さらに、私は学部も西九州大学(リハビリテーション学科)、修士課程も西九州大学大学院(リハビリテーション学)で修了させていただきました。慣れ親しんだ環境で研究をしたいと考えたので西九州大学の博士課程を選択しました。

指導教員の大田尾浩教授は現場での業務終了後でも論文ご指導をいただけるため、「仕事と学業を両立できる」ということも西九州大学大学院を選んだ理由の一つです。

### 6 どのような研究に取り組まれる予定なのか

慢性閉塞性肺疾患患者(COPD)患者は身体活動が低下されている方が多く、身体活動の低下は死亡リスク増加につながる事が明らかにされています。身体活動の増加にはどのようなアプローチが有効なのかを検証していきたいと考えています。

### 7 目標・意気込み

現場の患者さんに還元できるような研究を、コツコツと進めていきたいです。